

令和4年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

【 芸術特別栄誉賞受賞者 のむら野村 ほうざん峰山（65歳） 伝統芸能（尺八） 】



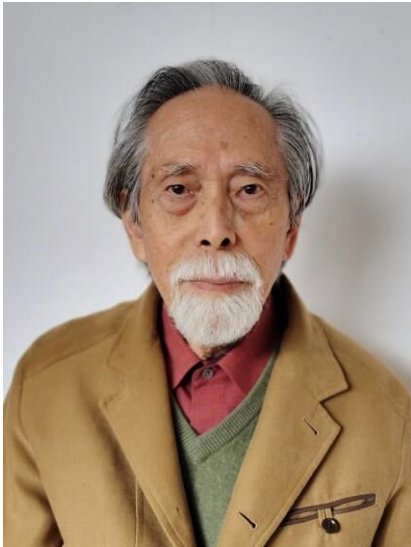
高校在学中の18歳より尺八演奏家の道を目指す。平成7（1995）年に「野村峰山リサイタルの成果」で文化庁芸術祭賞、平成27（2015）年には「野村峰山尺八独奏会」にて文化庁芸術祭レコード部門優秀賞を、令和2（2020）年に「初代中尾都山の軌跡～音楽的思想～」シリーズコンサートにて芸術選奨文部科学大臣賞を受賞するなど伝統的な尺八の演奏技法を高度に体現する演奏家として卓越した技量を示す。

本拠地名古屋では尺八の特性や音楽性、音色を土台にその真髄と楽器の可能性を追求しながら「竹の響き」シリーズコンサートや宗次ホールコンサート、和洋共演のコンサートなどを開催。さらには世界尺八フェスティバルにて招待演奏やワークショップを行うなど斯界の普及と発展に寄与している。

また、都山流尺八楽会の竹琳軒大師範の称号をもち、大学講師として後進の指導及び育成にも尽力し、令和4（2022）年には名古屋市初となる重要無形文化財保持者各個認定（人間国宝）の指定を受けた。こうした長年にわたる芸術創造活動と後進の育成は当地域の文化芸術の振興に顕著な役割を果たしており、その功績は多大である。

令和4年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

【 芸術特賞受賞者 しょうじ さとる 庄司 達（83歳） 美術（現代美術） 】



ふわりと空に浮かんだ白いハンカチにインスピレーションを受け、布による空間表現を中心とした創造活動を行う。昭和43（1968）年、名古屋市の桜画廊及び京都市のgalerie16にて布と糸が織りなす空間を作品とした個展「白い布による空間」を開催し、現代美術界へのデビューを飾る。以後、「白い布による空間」シリーズを始め、布と木材との協働による「Navigation」シリーズ、布による空間への出入りを可能とした「柔空間」シリーズ、船上での体感が想起される「Sailing」シリーズ、布の表裏を意識させた「Cloth Behind」など次々と作品を発表。昭和54（1979）年に名古屋市芸術奨励賞を受賞。令和4（2022）年には名古屋市美術館にて個展「布の庭に遊ぶ」を開催するなど、現在も空間表現の追求を続けている。

庄司氏の活動は国内に留まらず、ロサンゼルスやブライトン、バンコクなど海外でも作品を出展しており、国際的にも高い評価を得ている。さらに、名古屋市立工芸高校や名城大学、名古屋芸術大学など数々の学校で数十年にわたり教鞭を執るなど、後進の育成にも尽力してきた。こうした長年にわたる活動は当地域の文化芸術の振興に大きな役割を果たしており、その功績は多大である。

令和4年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

【 芸術奨励賞受賞者 ^{いしかわ}石川 ^{かえこ}馨栄子（47歳） 音楽（ピアノ） 】



平成9（1997）年愛知県立芸術大学音楽学部ピアノ専攻を首席で卒業し、平成11（1999）年に同大学院修士課程を修了。平成13（2001）年、第105回日演連推薦新人演奏会において、名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演し、中日賞を受賞。平成14（2002）年に電気文化会館にて初リサイタルを開催して以降、名古屋を拠点にリサイタルを中心に活動を行う。平成20（2008）年には名古屋市民芸術祭賞を受賞。

また、平成16（2004）年にフランスにて第6回ヨーロレジョン国際ピアノコンクール第1位及び審査員長賞を受賞し、海外の各種コンクールにおいても優秀な成績を修め、平成23（2011）年にはパリにてリサイタルを行うなど精力的に活動。

令和2（2020）年から令和3（2021）年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ベートーヴェン生誕250周年記念としてベートーヴェンピアノソナタ連続演奏会（全3回）を開催し、第1回目の公演で第16回名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞。令和4（2022）年にはリサイタルデビュー20周年を記念した独奏会を行うなど、積極的に演奏活動を行っており、今後もさらなる活躍が期待される。

令和4年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

【 芸術奨励賞受賞者 ^{いしはら}石原 ^{ひろえ}弘恵（47歳） 舞踊（現代舞踊） 】



中京女子大学（現・至学館大学）卒業後、平成27（2015）年に至学館大学大学院に入学し、健康科学研究科健康科学専攻修士を取得。独学でモダンダンスとジャズダンスを融合したオリジナルのダンスを探求する。高校非常勤講師をしながら全国のコンクールに挑戦し、20代後半には複数回にわたりニューヨークへ短期留学しコンテンポラリー、ジャズファンク、ヒップホップ等を経験。

振付師や踊り手として活動し「第20回なかの国際ダンスコンペティション」第1位をはじめ、これまでに多数の賞を受賞。また、海外を含む全国各地の公演にも出演しており、平成30（2018）年開催の自主公演「窺知～ワタシの在処～」では名古屋市民芸術祭特別賞「熱演賞」を受賞する。

意欲的な創作活動の一方で、清洲MDA講師や大学非常勤講師等を務め、至学館高校ダンス部コーチとしては今年で20年目を迎える。その指導力は高く評価されており、平成26（2014）年及び平成29（2017）年の「座間全国舞踊コンクール」では第1位並びに優秀指導者賞を受賞している。近年では演劇公演への出演やアラフォーアイドルレッスン指導、幼稚園児が対象のダンス講師を務める等、益々その活動の幅を広げており、今後もさらなる活躍が期待される。

令和4年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

【 芸術奨励賞受賞者 ^{かとう}加藤 ^{ひろき}洋輝（48歳） 伝統芸能（能楽・太鼓方） 】



平成 5（1993）年、名古屋大学観世会にて謡と舞を前野郁子師、太鼓を助川龍夫師により指導を受ける。平成 11（1999）年より国立能楽堂第 6 期能楽（三役）研修課程に参加し、16 世宗家観世元信師に師事する。平成 13（2001）年、舞囃子「善界」能「猩々」で初舞台。以降、名古屋を中心に各地の舞台に出演し、「猩々乱」「石橋」「道成寺」など数々の重習曲を勤めるほか、復曲能「龍之口」、新作能「紅天女」「織部」など多くの復曲、新作に参加している。

また、能楽の普及にも取り組み、平成 15（2003）年から新城能楽社を指導する。西尾城址薪能に平成 15（2003）年より出演、平成 27（2015）年からは企画運営に参加し、テーマを設定した選曲やイヤホンガイドの導入など新しい客層の開拓に努めている。平成 29（2017）年には本市等にて観世流シテ方武田友志氏とともに能楽体験講座を、また令和元（2019）年からは市内歴史カフェにおいて「能楽茶論」を開催するほか、子ども達が能楽に触れ、親しむ機会の創出にも取り組む。

令和 4（2022）年 7 月からは（公社）能楽協会名古屋支部副支部長を務めるなど、今後も太鼓方としての活動と当地域における能楽の普及活動の双方において、さらなる活躍が期待される。